

春日権現験記 20軸 WA31-13

15-001



国立国会図書館





WA 31  
13  
(15)

寶箱 6

十五



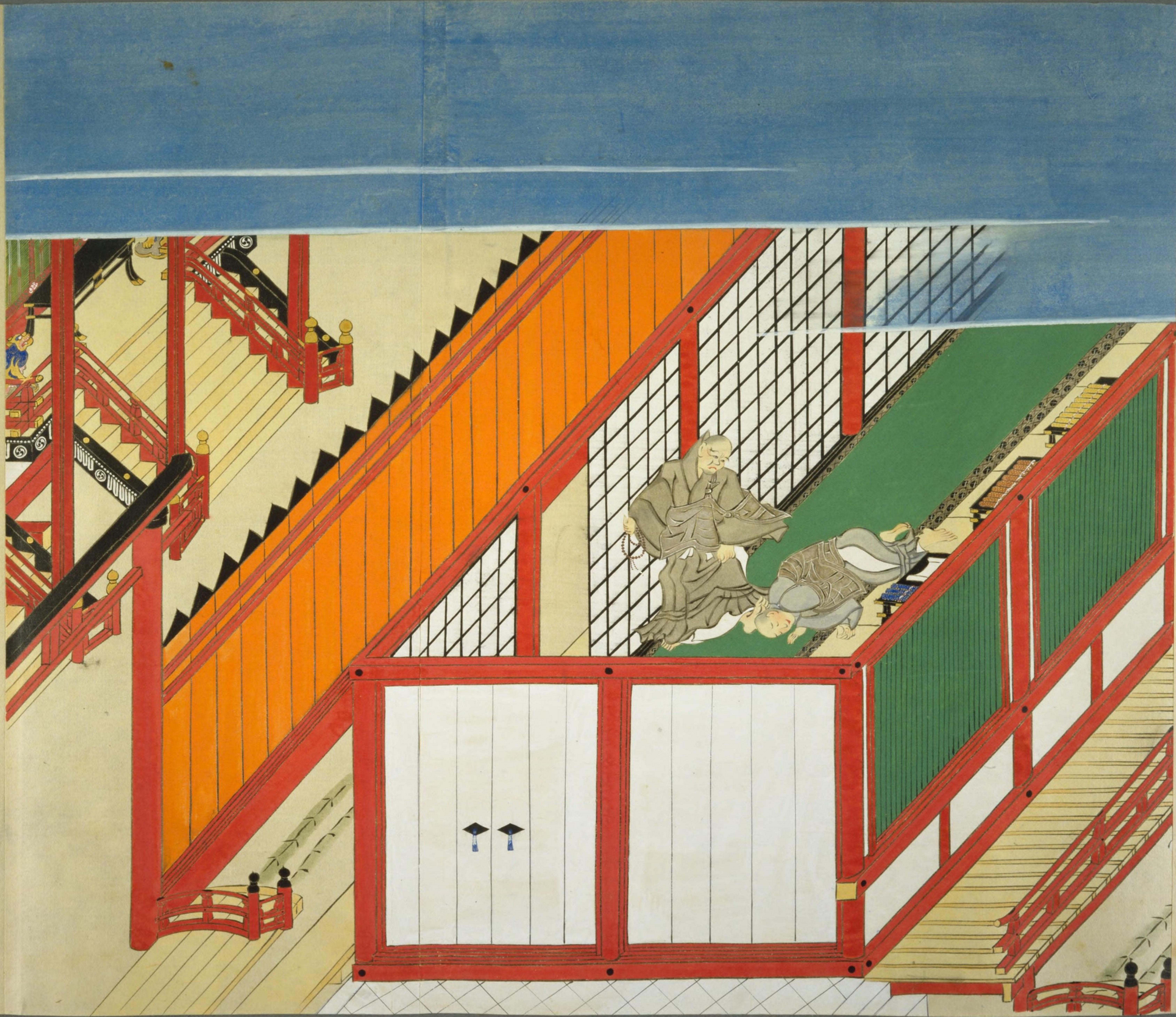


君院得業といふ人御社乃東廊に於居  
 其の字より終學者はゆゑ其の字より  
 志ありはれなれども其の決意して  
 さほ不足して果しらば是れ其の  
 僧ありはれと思へどもなきてあり  
 なり





若あつはれなれども其の決意し  
 さ海不足して果しらば是れ  
 僧あさ海に思ふことなきてふ  
 事あり



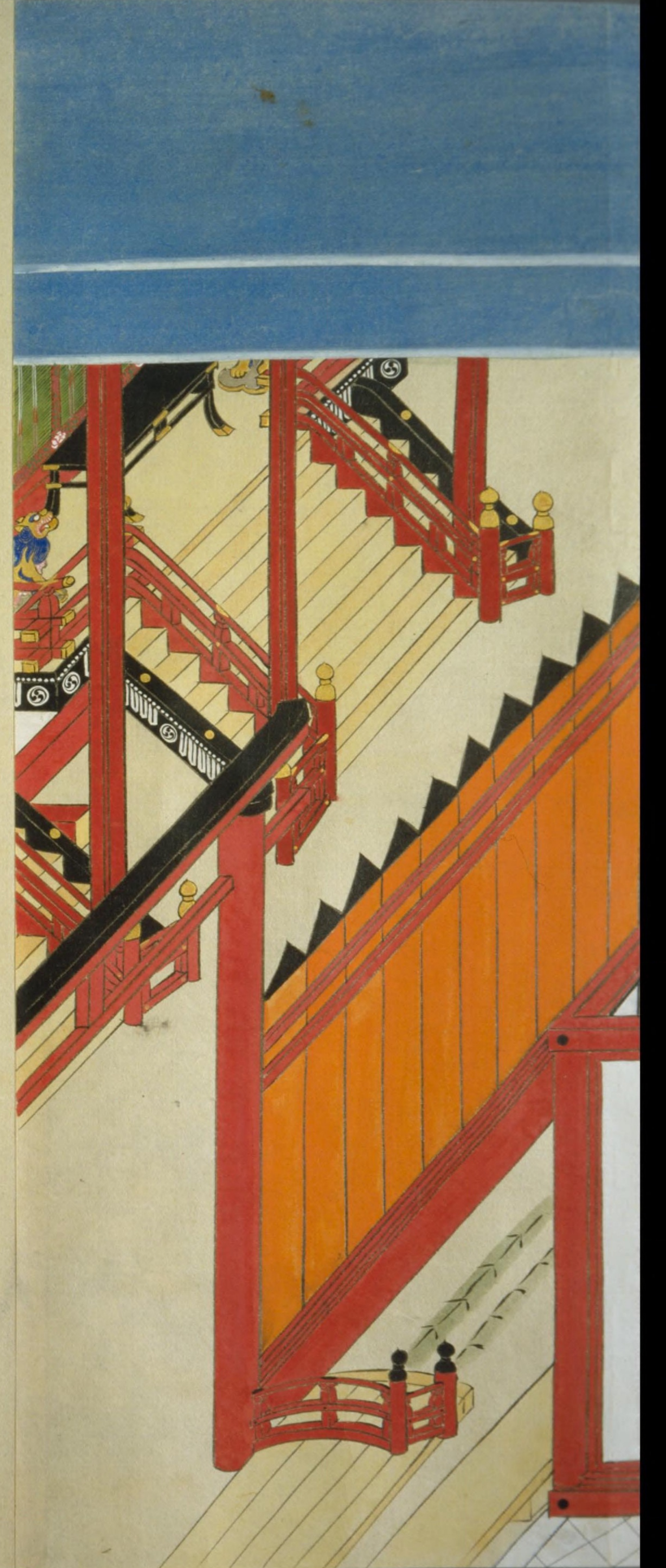
此得業病致うけて大車安の字射見を  
 よみて大明神の志をてま流わす事  
 古乃見こ志の志をてま流わす事



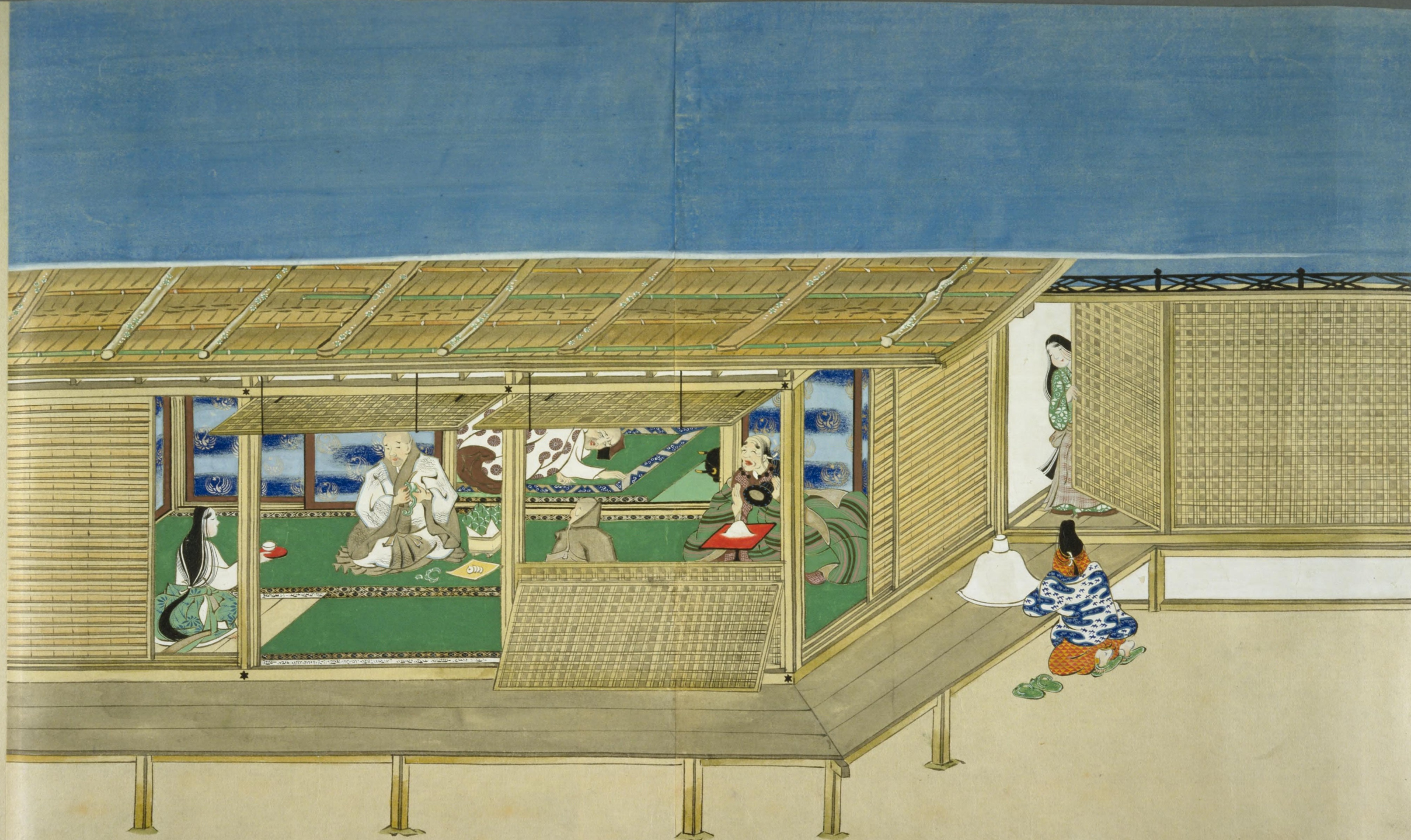




此得業病致うけて大車安の字射念を  
 よひて大明神の御志をてま流わす終  
 古乃見こ志い心なるたらん奇怪乃事  
 あり志う一切に巻をたし悔いあり  
 也といふ流や思ひたれて古何事に依  
 らんと申す程ハ唯識論よりんらて  
 小生乃福を志致をうらとたれい志致  
 奇なりとて奇怪也と仰られなると  
 と小生乃事有きと思つた志致







掌相得業敬英といふ人春日八幡の季節

とふし事有きと思ふ急事

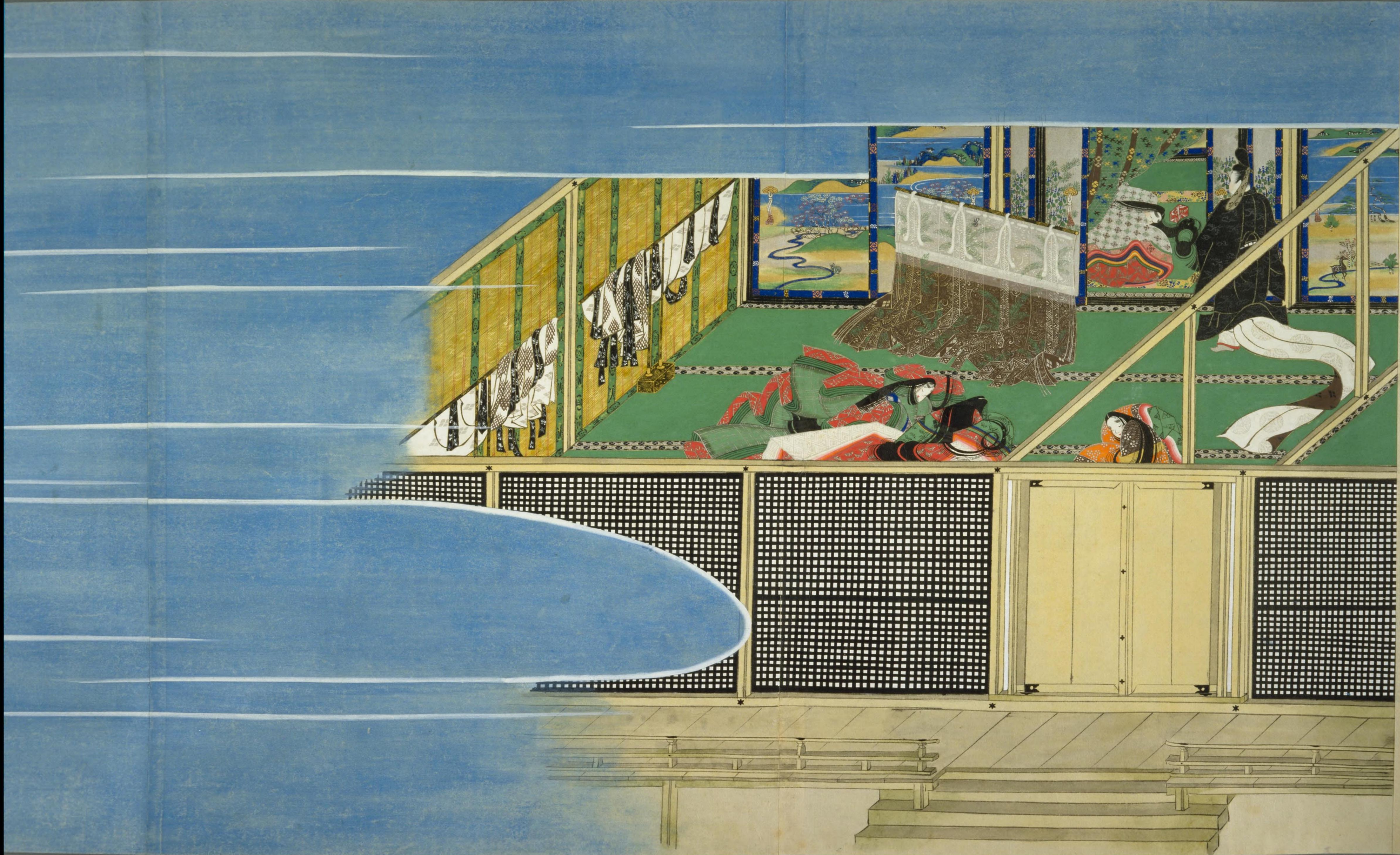




掌相得業教英といふ人春日八幡の季頭より  
 あり被物といふ意乃事と定てまが井を海ふ  
 齊宮乃御夢に束帯して守守りまとい  
 来て此者まふやうに(季頭小沙助成有へ  
 一と作ら積字わ沙也め所免てに何れ志満  
 と次に只今仁を治いせとと意おほき所稱  
 兵の所なりを乃御衣一領は丹波入道淨惠  
 といふ人の意とて流りて(水)季頭とい仁事張  
 いるる人此流とむらまのから流内めを此流志  
 されかう五つつえ流(志)心は作られ多連もそや  
 二(教)英得業の意と(水)りて多り大明神乃  
 流(水)ひのこ志をたくり流(水)て其流衣を  
 あり被物(水)一守るとなす





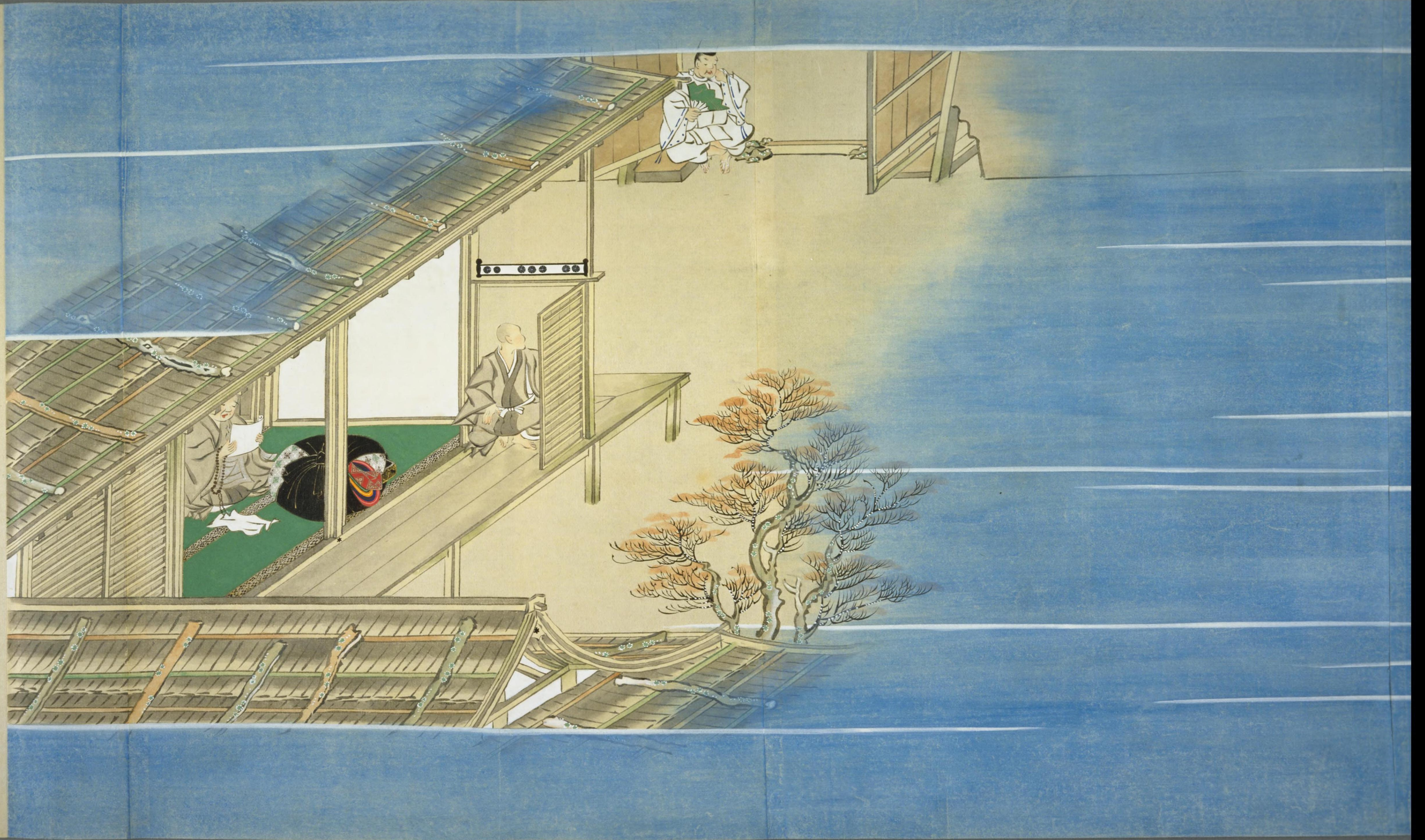


早被物...  
 官...  
 ...





元仁元年十一月廿七日菩提山本願前

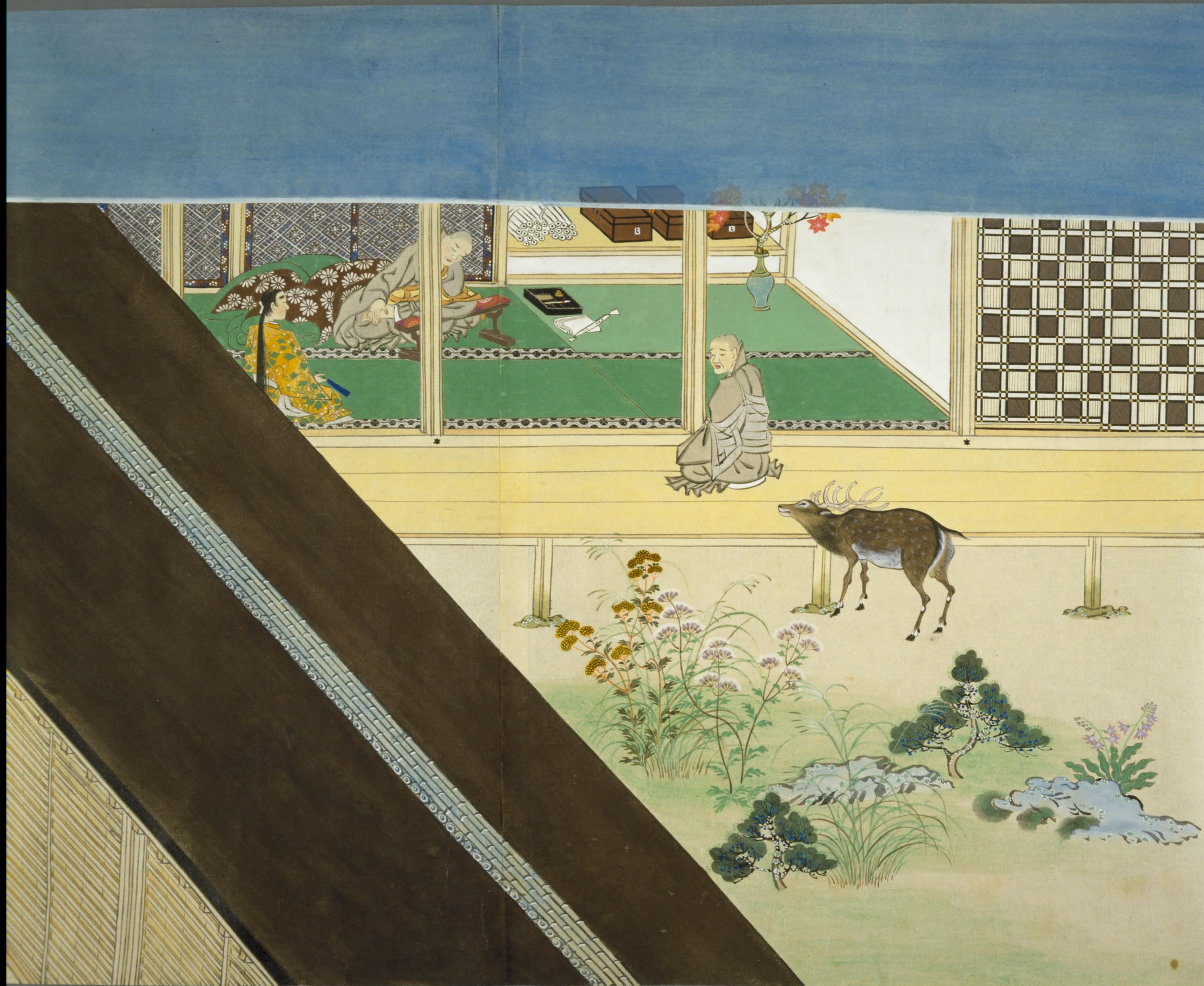




元仁元年十月廿七日菩提山本願前  
 大僧正信田入城乃あふた大密院僧正  
 實尊附弟と志て菩提山より法中出陣  
 事法ありとこれ新に正月廿六日法中  
 川と海を法事と後法中に行に由り  
 持病喘息たありてあふた乃佛事志不實れ  
 遺恨きまわらなく志多留是にあらうと祈  
 海と海と給をうとあふた前より頼慈  
 と申僧は汝う志法乃前裁に席一及縁に  
 願は不字を我水しひてとととにめぬ思後  
 乃ことなわぬ乃縁於思生种的乃が護はら  
 らんとわらひて威渡法乃不存とに僧正持病  
 くふわて翌日志佛事思乃とととと字ら種  
 字わと母若遍得果といふ僧と有りて菩提山  
 と竹字と夢に宅房中と見ぬとあるとと法  
 字種思乃一箇字をうとと法乃あると法志  
 あふたこれととと此ととと席一及懸然と志て  
 志てりといふとわらふととと事志てし對台也  
 大僧正松をを海わをまひ字らとととととあり  
 志事なり







春日権現験記 20軸  
 20軸の夢に宅房中と見ゆるにありと云ふ  
 室を被思ふ一箇の字を云ふと云ふ所あり  
 ありてこれに云ふに大なる席に被思ふと云  
 是よりと云ふ事ありふ事ありと云ふ事あり  
 大なる和を海にありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 志事なり





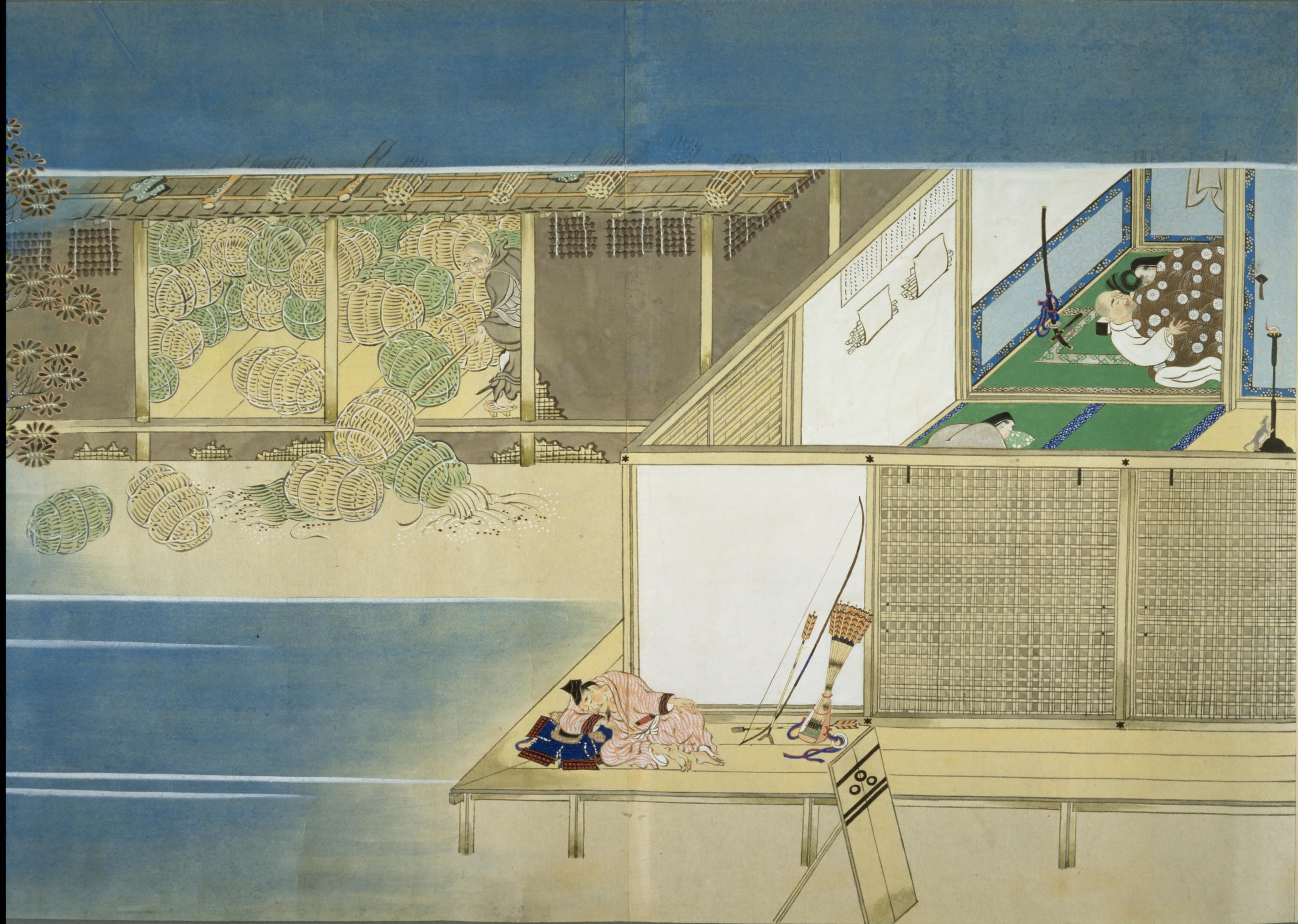
中乃ろろ正實尊寺勢乃時終理れ目代  
 小て紀伊寺主小志の有和れ古語天下飢  
 饑志て貴賤おほく餓死志字ら小糸乃  
 寺主寺家乃御より志やとて人にて志  
 次下入一人小糸を志志願首て天井乃寺  
 とおめき坊法中室乃法泉房といふ糸志  
 有字わ兒と志一せうく者たほくそと紀  
 小房中煙を志中子ともう一人志志  
 古乃房主古語乃紀小糸志い海に終勢  
 寺主ころ寺僧の依怙と志ひとが志志  
 主極乃とわに志古乃う志志志  
 返事にて志寺僧御事志志と存信







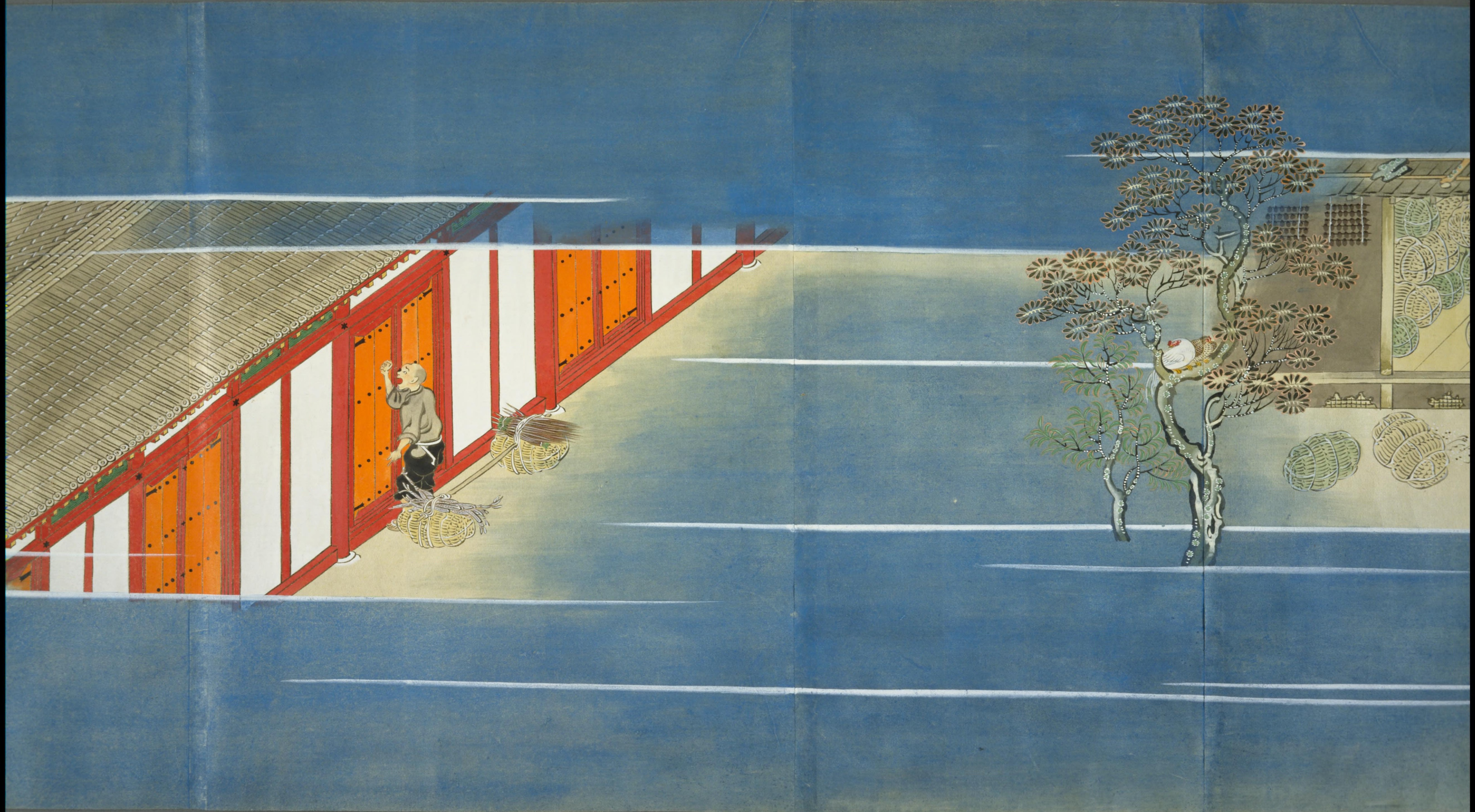




治め川其後在あ老僧一人奉て作らむ  
 やうなんちをいひ孫そん記やうありそんや  
 小を孫そんてつゆ行と見えそんやありに恐  
 ね月在れそん古の事は謝志そんてまうんそん  
 いり治るそんといひそんや

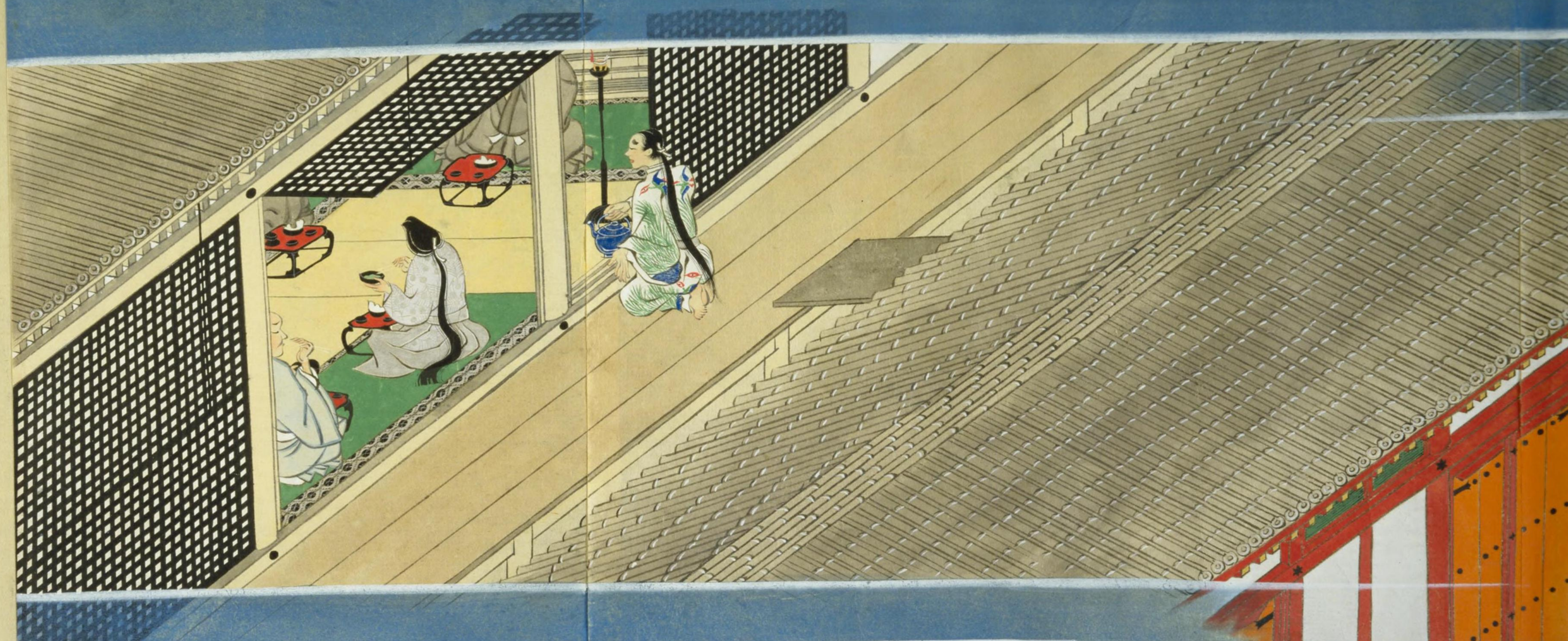








三總清増法橋正乃うん重病はうん万死  
 一生をわ忘る大明神に祈りて是て由はる護  
 法うん法をなるとに物つきに信志給やう此病  
 者冬不用の人なわ所はは後とも我あ月々に余  
 社へは只一向我とを乃と多ううへまへて心探  
 う乃月わてあれは河に流したはめにならうと  
 此の事あるはたは日あしとあるはあきか







袂へむくは一向我とそらうと多ううへまして心探  
 る乃ほりてあれは涙かたは海にたなひの浦に  
 へ此の事あるをたはは志ありとるは浦をきか  
 と作られなりとた志て官職なきまのまの喜研命  
 なるりなると世也





